繪本太閤記

五編

四

へ伊13
1833
52

へ3特
號 1833
巻 52

繪本太閤記五篇巻之尾

目録

秀吉槍三振太刀之話
秀吉郷猟馬場の陣を居給ふ図
原長治郎拜郷丸虎賁門殿して雄峯嶽と刎る図
瓢箪の馬印歓び英気を挫ぐ図
加藤虎之助高名之話
生駒乃猪物小兵を恐怯しむる図
加藤虎之助る名乃図
石川兵助戦死之話

福島市松高名之話

同図

糟谷助右衛門尉名之話　同図

平野權平名之話　同図

酒坂彩内高名之話　同図

加藤孫市郎名之話　同図

庁切祐俊高名之話

同図

盛政一騎襲秀吉郷牢陣話

同図

神宮文庫

錦市左衛門記五篇巻之四

七市槍三振之刀

同市左衛門尉者ハ厚と云る自裏ゟ者ハ備と拓く柴田近江勝家ハ佐久間盛政ゟ勇ゟ遠下知に蹤せざるを若ミ玄蕃改を討せていけふほどゝ市陣の隊を押切今市と東北の間なる孤塚ゟ陣と布き敵ゟ柴田三郎勝久ゟ三ゟ余騎と分ち佐久間が急を救ふ為しゝく進ケ山嶽へと向ふへと固めて拓ゟ進ゟ嶽の佐久間玄蕃が陣中織ゟ強ゟ秀吉後詰のゟ大垣ゟかけ付後ゟ攻来ると聞きけるに祥卿五郎清門盛政の弟に来ゟ先駆ゟ諸方の砦ゟ攻ゟ上れ岡を進ゟ佐ゟ伊何換秀吉ゟ今山地へかけ付ゟ〻ゟ見へ御使ゟ為めはじくこゝ

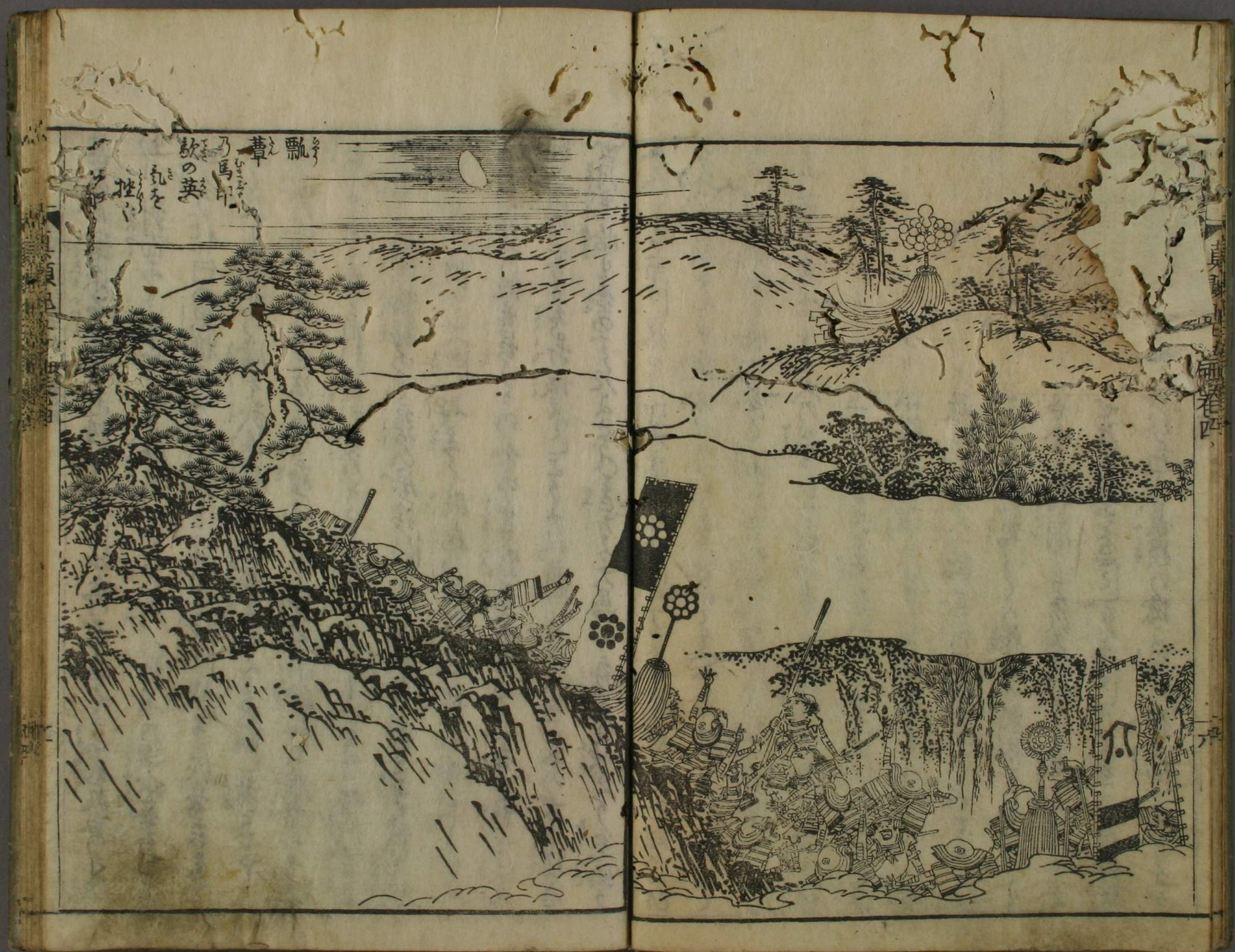
秀吉卿
猩々園

大海長り峰が峯鼠ど地下り黒田の親者坂の浦へ逃出く南と味と
戸口りたきび東西の西道敵方の炬火ひ〜と三つぎ恰と白雲のごとく
餘燼大と焦して影し又本岩の下のうちより人馬の足音大地と動し
大軍来る形勢るれば心弱る地内て豊臣と知と告々しいたして
の豊政ろ公先ひさきとば味方の大ると及びするぞ先宮と打ちて
清水清の辺りと引き後へを三く戦うと原義治郎釋郷五左衛門
と後殿して地ヶ嶽と引き引き羽柴侍従秀吉い美濃部勘
左衛門を養門者して親者坂と押さり茶臼山と往て猿馬場と云
不て換箱の腰と多暗く息とつぎ行ふ退く地集る軍兵る
諸人百騎三百騎五百騎ずく雲霞のごとく人々先よりく左方ま
揃へ岩〜勇を吹び周りの多いまぐ場ぐと人乱天と実のごり
ケ嶽の城すり葉山羽田先南ぶ勢敵の引と退けんと周と地て地出と秀
吉乃御勢も東南へ押地墓ろう向て地ちき い百ろ乃雷の臥の上と落
うぶちひと原辞郷が伏兵と弓鉄炮乃伏兵と矢とたげ地を
地ろ兵〜地もなくるぐれるぐれて逃ろうろされども京辞郷の
両人い勇乱西まび返合せ〜雲霞乃ごと上方勢と切拂ひく
引命と帰まぐ戦ぐうり先南五郎左衛門鉄炮乃兵三百人ろ〜山乃
るとへようぐとせ引引伝久間が後続一日よだらく〜と打負れ小兵
大きと汗と陪さんぶる崩と引を喰止く退ろ小原義治郎辞

原
次郎
沙山獄と
駆

[illegible]郷五左衛門[illegible]く血戦し又四五十騎討れ引かへしける玄蕃允是を見て
先きふつてちりぢりに成る爰を励ましきたるが味方の身に換へる原彌郷
の両人に合せて我れぞと罵りければ拝郷五左衛門嘲笑ひて何ほどの事
の我々が傍まで討れ候へ由者て近付けば何ども多勢の崩れ立て此方の敵
拝郷も来り喰付けぞや此上は我々が討死と志を沸戻せよと云捨て捨
を揚げ敵の中へ駈け込み竟に討死す小国の勇士長井五郎右衛門一原
勘兵衛鷲見源治郎山本勘七安藤次兵衛毛屋彦内鷲津九蔵等同
く敵中に切入り火花をちらして戦ひける此隙に佐久間玄蕃は継ヶ嶽の
小なる飯浦坂の南の岡に陣を立んと下知しける處に羽柴殿の雑兵
小姓の面々追崩さんと捕せんと勇みけるを秀吉制して汝等ちや我
するなり皆悉く我が下知を守るべし今新手と[illegible]けるは味方多く損ぜ

[illegible]しそ其弓矢加藤虎之助[illegible]進んで敵の備へを囲みしに
すは追崩さんと雑兵にはいらんと争へどもいや今少しにして討て
ては勝利なりとも味方多く手負ふべし汝等が若手もし味方の勇士なれば
こそ我々も秀吉にもまた人の恐れる又我なるべし汝等が勇も今より
されば控へよと戦ひ二人も勇士を失ひなば我に悉く今一息で[illegible]
なれば傍より今近江小姓の雑兵よりはせ秀吉の佐久間が陣
を違へ掛り[illegible]の惣政の不覚人が敵を見の上に悉く崩れ立ける
[illegible]ならこそ扶るなれ恐らくは謀臣が秘術を尽くすとも
[illegible]たるや今の斬崩しなれば兎ぞと思へ敵方を見
[illegible]せ後ひ葉をきこして扶ける家の柴田修理
[illegible]に人々長濱の城に帰り保養してゐるが


瓢
葦
乃馬月
歌の英
乳を
挫

甚[?]感[?]給ひ御陣見舞として御前近く参りし秀吉を呼び
出されて対面あり伊賀守が病気いかにぞと問ふに徳永寿昌が
申すやう何れも何の恩賜なく今月十六日死去いたし候と申しければ秀吉を
聞て不運の勝者を討取り付山国を悪党せんと思ひし者をとや
落涙の体にて何とぞせ給ふ其座にて近習の小姓なる藤忠なる徳
永が申せし武く見引袖引き知らるる陣中にて秀吉は旗組軍目
心を配り敵の動静を窺ひ居給ひしが石田佐吉三成を召して我馬印
をもて敵の後の山へ廻し押立て陣痛神の射たる敵兵へと挑ひやうせよ
と申渡されば佐吉畏りて金の千生瓢箪の大馬印を士卒に持せ佐久
間玄蕃の上なる高き坂にあげければ折しも廿日の月東の山の嶺を
出月光皓々と昼の如くなる大馬印を秋風に吹くて光渡り

てらすを見て山国藤光を見て仰天しそれ例の[?]が目の先にあ
ると見せられ前後左右は皆敵なるぞ引よ退よと言ふ後は踏止して陣を
蔵が連に立て右へ立るにぞ秀吉兼ねて立よりて須破小姓ども
附てて乗れしまくし上げ給ひ自身もえて采らる小吹立給ふに其
者より者を争ひて牙を噛んで相居る近士小姓馬廻り若侍なども
是を聞て跳り石川兵助加藤虎之助福島市松桜井左吉[?]七
平野権平加藤孫六糟屋助右衛門脇坂甚内片桐助作を始とし
あまた合の勇士鎗引さげ一条に敵中へ切入り賤ヶ嶽の七本鎗三
振太刀と世の人口に膾炙せしは此合戦の事なり

加藤虎之助働る名

加藤虎之助清正は秋小国の猛将なる武士をきて返しくへせと呼わって鎗をさ

生捕の
猪物の
少長
図

がりく突こんが小國勢討るく着数をこゝに義を乱して倒立体を
清正良等は命じて悪く首とこゝせは箭と切てこゝ小枝は首と共
蓋先は抜く逆行敵と八方は追めぐれが小國の兵士大きふ弱き
あるを敵き首乃こゝやや近寄て遍とるく右往左往へ迎崩る清正乃
谷口こて山路は臨えて人穂の口こゝ六尺余りの槍投げ者とうけ
て清正は突こんが清正何れ防ぐべき呂二突と槍を合せこ防は折と長
下陸は拂ひ双方突出る勇士こんが撞出れ槍乃穂先い電光のきこゝめ
くぶく生に鳴く懐こゝい獅子乃吼は矢こゝ虎こゝ吼く槍投捨
いぐゝ組んと大はいちげて三河へ山路は引ぐく槍と捨矢こゝとうけて
引組ぐり何とも者は勇者こんが撞れば命剛力を出く岩やくと組合しが
加藤は力や勝は乃こん山路は下れ引後腰刀抜んとこゝ乃山路は素広

見たる勇士こんが虎こゝ仇は右の腕荒と走りと掴く抜せじぬんと撞
合しこゝ何とこゝ虎こゝ助は乃虎乃走こゝ右の足を掛踏の撞こゝうけこゝ敵こん
こゝ虎こゝ助い死とこゝ生て踏合力は山乃行岸踏崩掛踏の撞に無こゝ
こゝ無びの緒と引切て二人の勇士組合こゝ岩金こゝこゝと撞ひ
落こゝ乃こゝ乃こゝ岩金こゝ敵ひこゝ山路い沒乃は力は加藤は勇
こゝ無こゝ雄く生年に十六こゝて清正に討こゝ清正は折て前撞落こ
腰こゝ結こゝる脇布の前袋へ押込て敵岩金こゝ乃こゝ甲こゝ乃こゝ上帯こ
こゝ付こゝ槍こゝ投げて敵乃方へこゝ疾行こゝ

石川兵助戦死

石川兵助真友は三尺に寸の太刀打こゝ敵こゝ乃斬こゝ長尺

虎之助
る名の
図

と渡武者八騎切捌し給勇でうさぎゆくろふ雄和の勇士安年左近
が弟に郎五郎とつゝ大力の兵大多の槍を引きぶる兵助月げ突
たば彼大力をひらりくと逸らひに郎五郎が突出し槍の穂
先と共に長ぶ稲妻のごく付のく右の肩先より胸板へけて
八すだろう切さげうに郎五郎壮年の勇士なれども逆さまに大
地へどうと倒るを抜くく者を打落し三よりたる白ふより紺糸威の具
足て結び毛の馬に膝を十文字の槍を吐しくとゝぶ勝澤り
ろと方勢と追まくくく血の浪と揚て馳来る武者ひり石川兵
助兵と名くく兵でよに歌対ふくろ名に絶へんと血の深る大力
うひろ名くく大勇小時まろ名の羽柴藤和守が近士石川兵助真友
大の後世御覧ひ勇く義力人ふの戦場の姓名いかふとつよの武

者安と應じて若て加賀国大聖寺の城主辛郷五左衛門久盈ひう
汝小冠者ぶ覚悟石川兵と云て来れしくゆくまゝくうそ石
川大きぶ怒りと長馬の諸足薙倒さんとおゞ開き拂へ付入左右と
下透間なく左右を踏立ひる拾郷が家人二十騎ばかり戦と
ろくく一日よどりと討て取る石川一人と三騎より斬立れい辛郷も背
を切て逃ひ長やとひん戦ひと知ひ槍り追来る歌ふ向て戦ふう
石川兵助大きに怒んて多勢とおよぶに秘術と長し近寄武者三騎切
捌し七騎よりと保せ踊上りく戦ひ長ぶ辛郷と打合の剛歌ふ
馬上此方い歩立右の肩と突抜し働き忠ふ任せば勇気い兵ふ西ま
どとつゝぶ打節後く味方ひ方くく多勢の槍ふ突伏らまたのりれむ
ど剛勇の壮士独ケ嶽の露と消うしと塵まね者いろうろう

福侍
京松
名のり
園

福徳市松名

稗郷五左衛門久盈、打ち退き、引せんと云て、しく死とうこと戦ひ、いまだ後に乃一番槍とつつ、戸乃渡りて、秀吉郷乃小性福徳市松、韋駄天乃如くに、稗郷を目がけのがれはじと、大声小呼まつく一文字に、突来る稗郷、取間に、急度足く、開き合せ、槍ぶすまを、取方、中乃別兵衛、刎ぶ、雄雄しく、さて後の方に、大声をあげ、よく、明紫、綾和、寄が、進士修本寺七小図の勇士、大徳図右衛門を、討んとて、ふで、福者市松、打ち、押つと、喰ひて、突たい、稗郷、取双乃勇士、なれども、今、和より、取ケ、敵の、大戦、力、労を、福徳が、勇を、敵、雄く、左の、脇、板、突通さ、ようとて、落て、福徳市松、を、考、首、とれてさ、ようり

糟谷助右衛門、満名

名、取坂乃、南の方、つく、小図乃、兵、復、書乃、指物、さ、しる、武者、と、秀吉郷乃小性、横手、左吉、人、切、先、より、史、烟、と、出、さん、ぐ、戦ひ、〜、左吉、孫、武者、を、切、倒、前、に、進む、て、佐久間が、勇、臣、宿屋七左衛門、と、名、のり、踏止つて、佐吉、と、戦ひ、七左衛門、援、稗乃、別兵、を、きて、佐吉、が、力、法、次、第、を、見、て、今、い、老、くて、と、ても、退く、心、なり、るく、討、死、せん、と、踏、込、〜、分、命、を、捨て、戦、て、て、糟屋助右衛門、と、名、乗、る、一、文、字、に、突、来、り、左吉、助、て、槍、を、合、て、七左衛門、い、既、に、左吉、を、討、て、と、糟屋、が、援、槍、に、場、げ、ら、を、乃、如、く、出、て、突、き、合、が、糟屋、が、槍、乃、突、き、合、電、光、乃、ひらめ、く、ごと、く、て、宿屋七左衛門、を、ら、ひ、兼、て、二、足、三、足、ひ、と、さ、ん、に、糟、谷、に、さ、ん、と、て、唯、一、槍、み

猪谷助
猪谷助右衛門
るる名の図

実盛は七左衛門が弟に留左衛門助光と見て、只の敵道さしと長力打ちう[illegible]て、逃来る紙撫手左右ありけれと奏けて二折三折折合ぶ双方一度に折物扱捨むと組く揺ぢ合ふ左右ありて前後の[illegible]

平地捨手ふる名

小方の一騎佐久間源六郎政軍いを勝一を二百余騎細ヶ嶽の尾濤を後くうし」が味方勝七頭八御崩れ乱れ無級軍と見えしいふ」て兄盛政政次と一所にありせ記ともせん拙と雲霞の如く退来る上方勝を切捨ひ〳〵飯の浦と引」を紛」を勝皆討記武い落引後十又騎馬を乗り引不人平地捨手長廉い白紙を巻の陣紙を巻」槍引ぶげて引敵引ると逃ふ源六郎と見給

槍をうけそらびきさふ〳〵ふる平地捨手見給て今さんとぶまり〳〵槍ひ引げく実うけて源六郎政軍ひ〳〵槍と合せ暫く〳〵んで戦ひ」が何と已に源六郎ひ槍の中ひどう打て乗らうう今ふるほどやらひえうひ〳〵迎引と平地捨手槍を抜のべ乗上つて見と実盛は槍ひ地捨実通勝とうもひ〳〵をい逃ひ迎のびうこれは槍と槍を地」退引と源六郎ひ家人十又六騎に方より槍横と仰う平地一人を名」が大勇豪政の捨手ひ〳〵せん左右捨手を実盛〳〵まて〳〵田ひ十騎汁孔をかしべく実盛さる見と見く法」兵平大ひ恐と法ひ〳〵て迎引とのぶ」ひ〳〵進和ひ勝ひ〳〵雄大ひ小原彩七とう勇士あり味方級軍の友〳〵味方の軍勢とまどう陣へ」を名とび」く勝ひの命とうけ戦場

平野搦手
きくの合の図

へ來りしかども味方諸手も崩れ騒ぎ何とも云ふべからざる有様なれば乱れ立ちたる折から由利が中軍を押よせたりけるに一刻へだてゝ上方勢に取囲まれ寄手切ぬけ此所に來りしが平野権平に出会ひ手下に見えける敵あれば壱をうけて槍合せ既に危く戦ふより小国勢に松村友十郎といふ者ありて平野と小原が戦ひを見て援合より壱をとりかけ尺槍平の正中を目がけ只一突と進み来るを権平すかさず見とがめ槍を相手にせず戦ひしが槍法尽し乱れたる勇気次第に増し壱を揚て小原彦七が胸板より首の骨へかけて突抜けば何かはもつてたまるべき尻居にどうど倒れたりけるを見て松村友十郎ますます怒り引返して逃げるを平野権平飛び来るのごとく飛びかゝり揚巻付の板よりまともにかけて肩先へ突つらぬき二人ともに

首を取らんと頻りにいさんで進みけり

蒲坂新内が名

蒲坂新内安喜は有名なる鎌槍の穂長きを追立て崩れ立たる小国勢を突の諸り彼方の谷へ突落し切倒し面白きやうにひた押しに敵の蒲坂を取り其日本の森を進み来る小国の勇士水野助三兵衛涛と名のり蒲坂と見て戦ふ蒲坂は飛龍の勢ひをなし只一突に水野を殺しいさゝか勇んで殺突して此部兵左衛門が引返して追付寄をうけて突かゝる此部は小鉞を所持して進む武道の功者なれど我田中河が下小屋を焼て名を得たる老錬の武士にて武運や尽きけんやゝ激昂に勇気もうるさく槍を合せけるが一突の突らされ戦場の土となりぬ是を見て小国勢の中より物の数とも

源頼朝
弓矢の図

勝ひ[illegible]る武者[illegible]と名乗て源坂を目がけおめく〳〵出て源坂
好[illegible]て槍の柄をそひ〳〵くとてき分け走り来て右の谷[illegible]
「[illegible]」と呼て源坂ぐひ勇壮と[illegible]く小国の級兵所を[illegible]
ぐ[illegible]れて逃[illegible]る徒久間三左衛門勝政[illegible]と[illegible]く逃る味
方の員をうけ[illegible]大薙刀をひ[illegible]く兵[illegible]源坂の[illegible]
人まぜ[illegible]秘術をほ[illegible]ま[illegible]計も戦ひ[illegible]三左衛門さ[illegible]
飯の浦の坂[illegible]左の肱を[illegible]炮[illegible]おろ[illegible]働き心の任せざる
[illegible]や劉勇の壮[illegible]ぐし源坂が槍を掛ひ[illegible]綿噛を突つ[illegible]ぬ
[illegible]馬より落て[illegible]彩内の討[illegible]るい[illegible]憩ひ[illegible]次第なり

加藤孫市郎高名

徒久間三左衛門勝政の[illegible]下の大将[illegible]右兵衛尉則政[illegible]の勢

の[illegible]殿」て峯[illegible]ひの足[illegible]を引[illegible]加藤孫市郎好明高士板
の用の佛[illegible]と[illegible]胸板の天人を[illegible]絵せ」白き威の具足を着〳〵
流き紫の[illegible]母衣をうけ十文字の[illegible]貫[illegible]の槍を持て後の
方より表をうけ出[illegible]と罵り漆牛右兵衛ふり[illegible]月毛を
ひ」ひろふ拍の[illegible]と[illegible]母衣をうけ[illegible]武者[illegible]れば[illegible]ほ」と又人
張の弓[illegible]十三束三つぶせの大矢を番ひ引[illegible]く切て放ち
孫市郎業の[illegible]利[illegible]れば[illegible]来る大矢を槍[illegible]てき依
[illegible]せ〳〵[illegible]来る[illegible]ば」と漆牛右兵衛弾矢つ[illegible]て
ひ[illegible]ぐ[illegible]を屈め[illegible]を進け矢[illegible]よく[illegible]右兵
衛ぐ[illegible]る馬の右後ぐさと突通せば[illegible]大地へ落[illegible]る馬
[illegible]ば」と槍を突敵」前と[illegible]く進[illegible]る

市郎
加茂
源

行切祐俊る石

行切祐俊且元い山崩と幼歌を追出し〳〵雑兵士卒と突捨は毛
ろ〻と抽の〻じて武者こそしいで首を取く腰を分け物胴を
我小い物しくして又人よりう実の雑兵の勇士の安義孫又
右衛門とく双紙の達人の金蕃吉が旗本と固め居しが崩
の味方と敵うとの槍代とく弛向ひ勝の安義うと上方勢の飯の
浦の坂中うて痛く崩う歌と討る七八騎勇とうて戦ふ
う行切祐俊ろう小叶孫と又相の逃はと
槍代とく兆寿の安義いでう先に向いでうん生の絵の虚々
実〻勝負と又〻しが行切元素安義の剣兵安義が槍法
次第の孔と叶はじとやうひうん引人を逆出せが行切蛇行く逃に

はじと追人て小図の武士を徳次兵衛長弁五郎左衛門等く弛よ向く
行切と槍を合に安義先の力を抜又元て戦ふ〻で行切祐俊歌
三人と相の〻と勇乳義加り鳴く妻の虎の吼ぶく家だうの
逃向の〻く突之〻我人の〻で小図方三人の勇士尚うが〻く又人る
の安義孫五右衛門又一番の〻げ出せは長弁者徳の者人もこ
と叶いじと一対の逃て幼行切祐俊をとげきて〻せく吼の
ま丁計追の〻小左い山右い谷一騎打の細きの〻と安義長弁者徳の三
人逃合く向の〻り人逃う〻ど先に進と安義五左衛門本の根の
たまづた先うのむけの〻ど例の〻ばね基例の〻ぬの二人まう
う〻て外れ〻を抜うや物人と行切祐俊穂の長さ二尺余り柄大
刃槍に〻く呂突の三人を突通向の本の根ぬい附い敷希如

斤切
裙帽
る名乃
風

る名をさしば彼ケ嶽先陣加藤虎之助福島市松平肥後守糟谷
助右衛門浦坂彩内加藤孫市行切祐勝名と七本槍と称じ石川兵
助伊木遠江七郎右衛門三振刀と唱へく其後今の武人に
迄もてり

盛政一騎襲秀吉本陣

此時賤ケ嶽の近辺切石〳〵より攻へ寄る二十余ケ所の砦より一日に間を
隔てひ〳〵より切て出れば本陣より先鋒柴田勝家甥佐久間盛政
松尾弱山内名家〳〵四旗指物旗幟を吹なびかせ鬨じく鯨波とよけ
我後じと討出れば山路谷郷き織る方〳〵勢の後れ実に雄く漏
者〳〵三て責討るれば小田勢の先陣後陣魂天地に飛び其の踏所さへ
無く崩れ乱れ落ちあり〳〵七里ほの山中と

よりとり峯伝ひに落ちあり親を捨て子を捨てと泣て跡に我後じと
駆出て行く者もあり〳〵義とやう名代勝れ勇士者〳〵
孔軍の中に討死せし勇猛なる武者共盛政に牙を噛んで
怒りなげく白本の森と落行る小柴田権六郎勝久三人余騎に
て勝家の命と受け盛政を敗ひのみ山下と押来りしかば武者共大
きに怪びけ彩るの勢を以て勝誇るに方勝と大ぜに討崩る本陣
一切へく旗本守ぶ者と成るの叫ぶ
馬引人狂出るを接六郎此時年いまだ十六歳佐久間の嫡子に
とが〳〵やかるいとしい物の狂ひ給ふ〳〵勝の基に軍兵を引返
和と武勇の者と作る討死せよと叫ぶに
退ぞ引て然れとこそ作ひき今秀吉が軍勢時の元山に蔓

勝は原じて其市へ繰る軍兵を以て向ひ戦ひ給へども何事も
を仕出はいんとゝじ本陣へ退きぬて又勝家と諸戦合せ今日敵の恥辱
を雪ぎ給へと仰せられ小玄番助吉眼を張り怒り罵り給へ
程なく敵ぞれぐ某勝家の下知に従軍を及び奴きぶて乃
無者一人も残せり敵を命の勝さ小本陣を捨り何の面目ありて勝
家に対面せんや汝いまく三方勝と生死を争ひ御軍戦死と遂んと云捨て猛勢
を指六郎治ゆう奏け御身左ぐんたひ給ひ我も他を討死と
ぞ吾一人本陣へ立帰ぶべく勝家の命乃勝さ小迎すいこたんすも
敵〳〵こ雲をかゝ出れ和て行年既老是角永秀細河忠清
勝須賀三勝本村隼人等ぐ大軍八方より切て出て蒲海うる小勝

と粉乃ぞく蹈崩勝さ奉く退来る敵佐久間玄番助柴田権六郎
三る金人を率九を使人雲乃ごとく大軍の中へ走入なを突入すす敵
ちゝびを戦へば大軍討死数を知らずさしぐも三方勝ハ勝を奉る所
敵乃勝ひ佐久間ら兵に度踏ん破く脇へ雑くで見人々ら小玄番
助ら敵討死の例と例乃段棒右を捨げ群ら所欲乃中を嘆と
鳴く討て入又人七人馬人ともを打例せぞ出もに勇ましき三方勝し玄
番助一人を雑をられに方へぞつと逃ちつう玄番助獅るの如うと
敵い迫ると退て只一騎きりと向ふを見くゝれがふるき山をみは獅
軍乃馬印風ひるゞりてきゝちきるを小玄番助天へもとる心地と
て奏ち右乃本陣ごさんりれと諸撞と合せ声と対るゞく一さんを敵
とふ小対秀若卿乃本陣より加藤佐久間ら蕪本の勇士を戻

盛政一騎
秀吉の
本陣と
龍考人
図

歌人四ひ騎兵総三百牙引ぐし馬上遥る軍乃体と見給ふ為ひ
ひゞけ乃見る玄蕃雷のごゝ鳴渡り俤乃様接近白ふ
一打と馬と飛秀吉と其間三限牙乃いやと見る内秀吉御鞍ふ
ふ立ち大の眼を開と見開き尾籠下良ちと叱ひ給ふを形勢い
摩利支天乃如ったるごゝ燭ゝ〻る眼の光り依久間ぶ限ふ異さく
勇猛乃歌乃玄蕃既ふ近び後へ三丈ばかり九ぢゝとさり馬
拳乃ふ汗とるゞし・ふぐるひて進を得ぬ附ふ上方乃赫々たるひく
ふる捕加藤福島行切糟谷源坂平野と先ひて名へゝ表ゝして
ふり来る玄蕃既い五念ふぐる五間ふゝ叫ひと長歌して退さる

繪本古閑記五篇巻之四終